

令和7年度
第1回大野市総合教育会議
会議録

日 時：令和7年8月29日（金）午後3時00分～5時00分

場 所：大野市役所 2階 大会議室

令和7年度 第1回大野市総合教育会議

日時：令和7年8月29日（金）

午後3時00分～

場所：大野市役所 大会議室

1 開会
（大野市民憲章及び大野市教育理念の唱和）

2 市長あいさつ

3 議題
（1）教育大綱に掲げる取組について

①子育て

②学び

③スポーツ

④ひと・地域

⑤文化芸術

（2）その他

4 閉会

大野市総合教育会議出席者名簿

	役 職	氏 名
1	市長	石 山 志 保
2	教育長	久 保 俊 岳
3	教育委員 (教育長職務代理者)	馬 道 保
4	教育委員	松 田 輝 治
5	教育委員	羽 生 た ま き

1	健幸福祉部長	加 藤 智 恵
2	地域づくり部長	澤 田 誠 司
3	教育委員会事務局長	山 崎 勝 彦
4	スポーツ推進課長	砂 子 淳 一
5	地域文化課長	五 十 川 秀 育
6	教育総務課長	土 蔵 郁 代
7	学校教育審議監	山 川 龍 一
8	こども支援課長	岡 吉 男
9	生涯学習・文化財保護課長	佐 々 木 伸 治
10	教育総務課企画主査	富 士 根 麻 裕
11	政策推進課長	小 林 勝 信
12	政策推進課課長補佐	廣 作 力

〈傍聴者〉

1人

1 開会

―― < 市民憲章、教育理念唱和 > ――

2 市長あいさつ

本日は、令和7年度総合教育会議を開催したところ、教育委員のみなさまには公私ともに大変お忙しい中、お集まりいただき誠に感謝を申し上げます。また、平素から教育行政の推進に多大なるご尽力をいただいていることに改めて感謝を申し上げます。

それから、昨年度、教育委員のみなさまに当時まだ整備中だった天空パーク OSORAの会場をご覧になっていただいたことを思い出す。おかげさまで、1月のオープンから7月末で県内外から約38,000人の入館があり、大変好評を得ている。本施設が、本市の子どもの健全な育成と、安心して子育てができる環境の充実に繋がるとともに、まちなかの新たな魅力となり、今後も市外から多くの方に訪れてもらえることに大いに期待を寄せている。引き続き、教育委員会と市が連携し、よりよい施設づくり、また施設の有効活用を図ってまいりたいと考えているので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、今日の議題だが、約2時間弱と長丁場の時間を用意させていただいた。教育に関する大綱と第六次大野市総合計画前期基本計画5カ年計画が、今年度が最終年度に当たっている。本日は、この大綱に掲げる5つの項目をみなさまと振り返り、今後の施策について意見交換をお願いしたい。長丁場となるため時間を区切りながら進めて参りたいと思うので、限られた時間とはなるが、忌憚のないご意見を賜りたくお願い申し上げます。

3 議題（進行：総合教育会議設置要綱第4条に基づき市長が務める）

（1）教育大綱に掲げる取組について

①子育て

――事務局より説明――

【松田委員】

先日の教育委員会定例会において病児保育の話があったが、今回預かり場所としてあかね保育園が提案されたが民間保育所の中では難しいということか。

また、あかね保育園でお預かりする時に、今までは病院で子どもを預かっていたので専門の看護師などのバックアップ体制が必要で、その手当はできているとこども支援課長からお聞きした。ただ、病気の子と元気な子を保育園の施設内で一緒にお預かりするというので、なかなかデリケートな問題だが、元気な子の親が不安にならないかという懸念がある。その辺の対応の仕方、元気な子と病気の子の分離はどういうふうにするのかを教えていただけるとありがたい。

先日も申し上げたが、勝山ではして大野にはないことがあるので、大野に住んでいれば安心して子育てができるという環境整備は、人数が少なくても行政の中できちんと対応していくべきだと思う。

【市長】

ちょっとだけ整理させていただきたいが、今日の議題とは別のところで情報を得られたものについてのご質問と捉えさせていただいてよろしいか。8月の教育委員会の定例会でお話があったことについての追加のご質問ということでよろしいか。

【こども支援課長】

今ほど説明したあかね保育園のことは医療的ケア児の受け入れのことであって、病児保育とはまた別である。胃ろうなどの医療的ケアが必要な子どもの受け入れについては、これまでもあかね保育園で実施しており、新たな取り組みでない。前回の教育委員会定例会で説明した病児保育については、まだ取り組みを進めているところである。

【松田委員】

令和8年度以降の施策の柱の中の「ニーズに応じた保育・子育てサービスの充実」という項目で、「公立保育園や民間認定こども園の規模の適正化」ということが出ているが、もう子どもが少なくなっているのに、民間認定こども園との兼ね合いがなかなか難しい。その辺を行政として考えていかなければいけないので、今から詳細に詰めていくといい。

【市長】

ご意見をまとめていく場にしたい。今日で結論が出るというよりは、今後5年間の施策の柱について、どういうふうにお感じになったかという意見をまとめていって、よりよい計画づくりに反映していけるといいと思うので、今のはご意見をいただいたという形でよろしいか。

【羽生委員】

令和8年度以降の施策の柱の3本目に「若者支援と情報発信」とあるが、政策を進める上で情報発信が武器になると思う。

私の個人的な推しは何と言っても「大野ですくすく子育て応援パッケージ」である。自分が子育てをしている時に、このパッケージがあったらどれだけ良かったかと思う。今のお母さん方、お父さん方はすごく恵まれていると思う。実際に大野にUターンやIターンした知人によると、このパッケージを見て大野に移住しようと思ったという声をいただいている。

毎年同じではなく、前年度の課題を生かしてアップデートされている。マークがついていて、医療費の助成や放課後の居場所などは全国や県内のトップクラスということがわかる。切れ目のないサポートが書かれている。20代、30代の女性を引き込む良いツールの1つだと思うので、令和8年度以降もぜひ、利用者の声を拾って積極的なPRと周知に努めていただきたい。

また、これはネットで検索するよりも実際の冊子を見た方が柔らかい感じで良い。ただ、残念なことに若い世代に届いていないところが多い。多分、区長さんが広報誌を配布あるいは地区の定例会でお渡しするときに、他の配布物と一緒にしている可能性がある。そうすると、若い世代の上の世代で止まっていて、若い世代の方は見ていない方が多いので、その辺の周知や声かけの工夫がもっとあるといい。不安解消の玉手箱のようなパッケージなので、有効に多くの人に見ていただいて、1人でも2人でも大野に来ていただいたり、大野にもともとお住まいの方が永住していただけるように、更に拡充していただけるといいと思う。

【馬道委員】

羽生委員が言われたように、「大野ですくすく子育て応援パッケージ」は素晴らしいものだと思っている。私の娘も対象年齢で、このパッケージを褒めているのでありがたいと思っている。

また、息子が子育て世代で、住所は福井市だが、子どもが産まれたばかりで今大野で育てているが、先日、大野市の保健師が3歳児健診で来てくれて安心した。福井市と大野市で、各課で連携を取り合ってくれていると知り、本当に安心した。

そのように、この「大野ですくすく子育て応援パッケージ」は素晴らしいものだと思うが、結婚をしてからの応援なので、やはり結婚することに対してもっと応援すべきかなと思う。

先日、人口減少の原因はまず結婚しないことだとテレビで見た。結婚しない理由は給料に関係がある。給料の多い人と結婚すると、何人も子どもも生まれ

ているというような話をしていたので、やはりお金は関係してくると思う。給料が少ないと、せっかく結婚しても、子どもは1人でやめておこうかなとなる。難しい政策だと思うが、保育料を全部無料にするなど、保護者の負担の少なくなる政策があるといいと感じた。

【教育長】

私は、一貫して18年をつなぐ、そういう子育て教育の観点から申し上げたい。結論から言うと、保育園、認定こども園、そこから小学校への連続性というのが非常にスムーズになってきた。

約10年前に、文部科学省が政策として保幼小の連携を始めたが、なかなかうまくいかない部分があった。しかし、大野市はいち早く保育園の部分を教育委員会へ移行したので、非常に連携がうまく取れてきたと思う。

1つの例として、今年の7月の終わりに、9回目となる「大野っ子育てのつどい」を開催した。3～4年前から、認定こども園の保育士に参加を呼びかけていたが、今年、いろいろな形で垣根が低くなって参加しやすくなったと好評だった。参加者200名中30名くらい保育士も来ていただいて非常にありがたかった。どんどん進めていきたいと思っている。

【市長】

子どもの分野については、昨年度までに「こども・若者計画」を立てていて、これまでの検証がしっかりなされている。また、「こども・若者計画」での新しい展開についても、今年度既にいくつも始まってきている状況にあるので、その部分も柱と合致している形で書かれている。さらにいろいろな場で意見を集めながら、今後も前向きに取り組んでいっていただけるとありがたい。

また、教育委員のみなさまと少し共有したいと思っているのが、総合計画を立てるに当たり、前期の時も審議会のみなさまにお願いしていたが、人口が減少していく社会にあることを直視し、SDGsを物差しにして、いろいろなことを連携しながら協働しながらやっという話で、後期計画についても進んでいくと理解している。

その中で新しい視点として、ウェルビーイング（幸せに生きていく暮らししていく）という観点を取り入れて、それからシェアリングエコノミー（みんなで分かち合うとか、技術や知識、人材、物、場所などを共同化しながらうまく活かしていく方法を探せないか）ということと、もう1つがジェンダーギャップの緩和（若者も女性も男性もみんなで生き生きと暮らせる地域づくり）をしていこうという感じでやっているの、そういったところも感じ取っていただきながら聞いていただくといいと思う。

②学び

――事務局より説明――

【市長】

教育分野についても、この5年間で本当に様々な取組みをしていただいて、まずは中学校、そして来年度の初めには小学校も再編するというので、地域の方々も巻き込む形で本当に丁寧に進めていただいた。先程の「学校が楽しい」と回答する児童生徒の割合という成果指標にも表れてきている。

後期に行くに従って、キーワードである「18年をつなぐ教育の実現」といったところが、これから本当に見える形になってくるかと思うので、資料の11ページの柱の素案の1つ目「探究と協働による学びの推進」のところの1番最後に「18年をつなぐ教育の実現」が出てくるが、この位置でよろしいのかということが拝見して気になった点である。しかし、もしこれをこだわりを持って最後に置いたのだとすると、それはすごく大事なポイントではないかとも思いながら拝見した。

また、前のページにあるが、いろいろな建物の老朽化が進んできていて、実は1番優先度を上げて学校施設の改修に入らせていただいている。そうしたところもしっかり進めながら協力してやっていきたい。

【馬道委員】

自分は今年度から陽明中学校に勤めているが、タブレットが1人1人に行き渡って、随分使い方が変わってきたなと感じている。同時に、授業形態も随分変わったと思う。

まず課題を全員一斉にタブレットで見せて、どういうふうに学習していくかや学習の振り返りも自分なりにするという使い方がされていて、随分主体的な授業形態になってきていると、年度当初に学校に行ってみるとびっくりした。生徒会活動に行く時も生徒はタブレットを持って行くし、本当に活用されていると感じている。

一方で、学習に集中できない生徒はこっそりとゲームをしていたりする様子も見られる。自主的にやろうとする子と、本当に興味を持たなくて違う方向にいくような使い方も見られて、その辺の使い方を検討していく必要があると思う。

また先進国を見ると、タブレットのような機器を使って授業をしていくのを止めて、昔の日本のやり方に戻ろうとしている国もある。タブレットによる授業というのもあまり良くない部分もあるようなので、どちらを重視するかということも検討していかなければいけないと思う。いずれにしても今は良い方向

と見ている。

また、探求的学習というのは、子どもたちにとって本当に必要な授業だと思う。中学生が入試で探求学習のある高校を目指すという声もよく聞くし、自分で探求して学習することは魅力的なことだと思う。

もう1点、幼小中高の連携ということで「結・協議会」が発足したということだが、なかなか周知されていないように感じる。どういうものなのかあまり把握できていない。学校再編のことなどはいろいろな形で広報されていたので、大野市民はほとんど知っているが、こういう18年をつなげた事業についてはあまり知られていないのではないかと思う。やはり学校関係者だけではなく、いろいろなところで周知されて、そういうことをやっていると認めてもらえるようなPRをしていただけるといいと思う。

【羽生委員】

大野らしい教育の在り方という視点で見た時に、ふるさと学習と探求学習はいいと私は感じている。これは18年をつなぐ教育の中にも織り込まれているし、その良い例が高校生が考案した「すこスコーン」という形になっており嬉しく思っている。職場で県外の方と話した際に、地元の中学生在が大野の観光案内を丁寧にしてくれたと聞き嬉しかった。ふるさとに対する熱い思いがいっぱい詰まっていたと聞き、小さい頃からしていたふるさと学習や体験学習の効果が、臨機応変のパターンでも発揮できたんだと感じた。

私自身は、学校再編によって子どもたちがうまくやっていけるかなという心配があったが、先程市長も言われたように、学校が楽しいかという設問の回答が上昇傾向でほっとしている。近隣の中学生に聞くと、新しい関係を築けて嬉しいとか、部活動の選択肢が増えたのでありがたい、スクールバスも安全安心で便利だ、学校によっては探求学習がなかった学校もあるのでそれが新しい学校ではできるのが非常に嬉しい、と言っていた。

先生や学校だけでなく、小さい時の学びの中で地元の多くの人に関わるということが、学力だけではなく人間力をあげることにつながるんだと学校再編を受けて思っている。18年をつなぐ教育の礎にもなっているし、大野型教育の意義ではないかと思っている。学校再編で確かに課題は多いが、生まれ育った地域だけでなく、広域な意味での人のつながりの中で、ふるさと学習・探求学習ができるということは、その子たちが大人になった時に、大野に対し誇りや愛着の形になって表れてくるのかなと思う。それがやがて具体的に「やっぱり大野に帰って子育てしよう」というところに着地してくれると嬉しい。

【松田委員】

学力も非常に大切だが、地域と一体となった学び・体験の推進ということで、保育園それから小学校・中学校の中で、いろいろな地域行事に参加したり文化に触れあって、郷土を愛する心というものが出てくると思うが、小中学校の再編により校区が大きくなって、地域の伝統文化に参加していくことがなかなか難しい。学校の中で取り入れてくれている部分もあるが、子どもも少なくなっているのも、地域の方も同じ校区の中で一緒に盛り上げてやっていけるような体験学習を取り入れていってもらえると、郷土愛の育みに非常にプラスになると思う。ぜひ柱の3番目の「こどもたちが体験する機会の確保」ということで進めていっていただけるとありがたい。

【教育長】

資料の6ページに「結・協議会」について載っているが、やはり大野の強みというのは自然や歴史であったりいろいろな面があるが、サイズ感でいうと非常にコンパクトで1つの学園のようなイメージである。今までやってきたことをきちんと整理して、「結・協議会」を基幹エンジンとして動かしていきたい。

馬道委員や羽生委員がおっしゃったように、情報発信が非常に大切なので、ここはしっかり市民のみなさんにご理解いただけるように進めていきたい。

前期基本計画においては、学校再編計画も含め、学校教育の基礎部分のところをやってきた。おかげさまで、全国学力調査の結果あるいは不登校の減少、そして先程の学校の満足度、こういうのも確実に上がってきている。そして、総合的な教育あるいは子育て環境の整備の一環として、部活動の地域移行もご理解をいただきながら総合的に進んでいる。このコンパクトな強みをしっかり活かして、ウェルビーイングな教育環境をつくっていきたい。

③スポーツ

――事務局より説明――

【羽生委員】

スポーツというのを市全体のレベルで考えた時に、大野市は非常に高齢化率が高く3世代家族も多い。また、上の世代の方々が地域の中でも非常に多くの役割を担っていると思うと、その年代層の健康寿命をいかに維持して延ばすかということが課題になってくる。

その健康とか生きがい、仲間づくりという観点からも、うまくはまっているのがヘルスウォーキングプログラムだと思う。登録されている方々は、歩くこ

とを必然的に行うために、いろいろな工夫をされていて、小学校の登下校の見守り隊に加わったり、仲間同士で一緒にウォーキングするのを楽しんだり、車を使わずに歩いて買い物に行くようにしていたり、広がりを見せていると感じている。新しいことを打ち立てていくのも大事だが、継続して、この事業を拡充していただけたらとも思う。人それぞれのおすすめコースなども広報で紹介してもらおうと新たな視点で広がっていくように思う。

また、この政策とは離れるが、名水マラソン等のスポーツイベントの充実という点で、大野出身の若いスポーツ選手ががんばっているのも、市報にも載っていた大藤沙月さんがもしオリンピックに出られた際は、パブリックビューイングなどを設けてみんなで応援するなど、みんなで楽しめるといいと思う。

【松田委員】

基本的には、令和8年度以降の施策の柱ということで示されている3つの柱を強力に進めていっていただきたい。

羽生委員もおっしゃっていたが、大野と関わる人でいろいろな競技の中で、全国レベルや世界レベルまで達している人がいる。地元から飛び出しているそういう人たちと何らかの形で関わりが持てるような施策が大事ではないか。本人が大野出身の人だけでなく、お父さんやお母さんが大野出身、おじいちゃんおばあちゃんが大野出身など、そういう関わりのある人と繋がりが感じられるような、市民の目標や希望にできるような取り組みができないものか。

もう1つ提案というか、具体的にはトランポリンをしたい子どもたちは大野に基盤がないので、みんな勝山に行っている。大野の中学校ではもうできないから、中学校の時点からもうよそへ行っている。でも、大野に愛着がない訳ではなく、ふるさとをものすごく愛している。そういう人が各々と関係があるんだよということで、大野市民の1つの希望の柱にできると面白いのではないかなと思う。

【市長】

総合計画は、みんなでしょう、協力して働こうという視点が大事なので、アイデアを出して誰かが手を挙げてくれるかどうか、というところも大事である。行政がしなくてはいけないということではないので、松田委員が手を挙げていただいてもいい。楽しいアイデアだと思う。

【馬道委員】

人生100年時代と言われているが、ただ生きているだけでは駄目で、やはり健康体で長生きしなければいけないと思っている。健康で長生きするために

やはり歩くことが1番大事だと言われており、自分も夏休みに入ったら毎朝10分歩こうと決めてやっていたが、何かメリットがないと続かない。ヘルスウォーキングのポイントのように、何かメリットがあると自分も続けられるように思う。いろいろなスポーツイベントや行事をする場合に、何かメリットになるものがあると、すごく参加者が多くなるのではないかという気がする。

それから、先程の2人からも名前が上がっていた大藤沙月さんは、3歳から卓球を始めたが、指導者に恵まれてああいうふう伸びた。砲丸投げの奥村仁志くんも、相撲は怖いから嫌だと言うような心の優しい子だったが、高校へ行って一気に伸びたように、やはり指導者によってぐんと伸びるような気がする。

資料を見ると、指導者の公認資格を持っていらっしゃる方が増えていて、とても良いことだと思う。もちろん指導力も大事だが、指導力プラス、スポーツに対する考え方や人生観も大事だと思うので、今後も指導者の援助をして育成してもらえるとありがたい。

【教育長】

やはりこのスポーツ分野でも18年をどう繋いでいくかと思っている。馬道委員もおっしゃっていたように、資料の6ページの資格獲得者数が伸びてきていることが非常にありがたいと思う。

中学校の部活動の地域移行が進んでいるが、単に学校から切り離すというよりも、大きい目標は大野市の文化・スポーツ環境の整備の一環であるということをしっかり見つめながら進めていきたい。文化・スポーツの一貫性を担保していくことが必要だと思う。そういう意味では、スポーツ少年団とその中学校のジュニア、そして高校という一貫性ができつつあるスポーツ団体もある。単なる部活動の地域移行という考え方ではなく、本質を見つめながら18年をつないだ環境整備をがんばっていきたい。

【市長】

人口減少社会の下、今のスポーツ推進計画を立てる時には、健幸おおの21の計画を立てる時とちょうど同時期で、健康長寿で居続けられるように、身体活動といったところの共通項目に着目して計画を作ってきた。実際にこれまでの総合計画でも、実績を見る限りにおいて、健康長寿課とも連携してしっかり取り組んできたと思う。また一方で、競技力の向上についても、本当に多くの子どもさん方、あるいは高齢者のねんりんピックに出場される方も多かった。

施設の老朽化という大きな課題も抱えているけれども、それぞれ最適化していく必要があると感じている。

中でも、教育委員会のみなさまのご協力や学校現場の先生方のご尽力もあつ

て、中学校の部活動移行について全部活移行できたのはありがたく思っている。一方で、その担い手となる地域クラブの団体のみなさまの方も、指導者あるいはこれからのスポーツ人口を拡げていくという意味で、前向きに捉えてくださったのだろうと思う。みなさまのご意見を踏まえながら、いろいろな計画づくりについてがんばって検討してくれると思うのでよろしくお願ひしたい。

1つだけ、スポーツ推進課長に新しいお話だけご紹介していただくといいと思うのだが、国のスポーツ推進計画の中で、さっきの3つの方針に対してもう1つ入ってきていると思うので、それだけちょっとご紹介いただきたい。

【スポーツ推進課長】

3つにプラスして、スポーツを「知る」という方針を国の方でも掲げている。スポーツを「知る」とはどういうことかということ、スポーツを通じて今のように健康づくりができるのか、スポーツにはこういう効果があるのか、スポーツをするとどういった良いことがあるのか、そういったことをやはり知らしめる必要があるのだ、そういった観点からも今後取り組んでまいりたい。

【市長】

今、スポーツを「する」「見る」「支える」の3つを進めているが、全国的な中では「知る」が入ってきていることだけちょっとご紹介だけさせていただく。

④ひと・地域

――事務局より説明――

【松田委員】

資料の課題に書かれているように、「一部のみに役割が集中しているため、負担を軽減する仕組みが求められている」とか「参加しやすい時間や内容が求められている」ということで、結局どういったふうにしたらいいかという結論に導くことがなかなか難しい。地域の中でも大規模な集落と小さい集落があるが、いろいろ役割分担は小さい集落も大きい集落も同じように求められてくるので、その辺の仕組みづくりを時間をかけてやっていかないと難しいと思う。

家もだんだん減ってくるし、みんな組織には入りたくないし役職も持ちたくないという人がけっこう増えているので、その辺の意識改革が必要だと思う。みんな1人1人が、自分の地域で1人1役担っていくというような意識づくりを、住民自身も考えなくてはならないし、全体の中でも考えるべきだと思う。

【馬道委員】

自分の地区を見てもすごく高齢化していて、世代間交流として何か行事をしようと思っても、なかなか企画が生まれなかったり、参加する人数も少ないとか、どの地域も高齢化してよく似た課題があると思う。それで、各地域でいろいろな活動をしていると思うが、どんなことをしているのか、他の地域の活動を知れば、もう少しうちの地域でもやってみようかと参考にして活動したりできるので、私の地域ではこんなことで盛り上がっていますという情報を知らせてほしい。

それから、令和8年度以降の施策の柱の2つ目に、公民館を地域交流センターへと位置づけるという考えがあるようだが、どういう効果があるのかが自分には見えにくい。今の公民館も一生懸命やっているし、下庄地区ではしもプロなどいろいろな活動をしている。私は今年から区長もしているので、いろいろ公民館に行ったりするが、よくがんばっているという感じがしているので、敢えて地域交流センターへの位置づけするのは、どういう効果を狙っているのか説明をお願いしたい。

【羽生委員】

答えに窮する難しい問題だと思っている。行政のみならず、いろいろな団体でコロナ禍以降、組織離れとか行事離れという後遺症があるのは否めない。

ポイントになるのは、地域の垣根を取るバリアフリー化と、それからスリム化かと思う。別の視点にはなるが、教育委員会委員の代表ということで入っている明るい選挙推進協議会では、今般の参院選の説明を受けた時に、「大野市ではバリアフリーでどこの会場でも投票ができますよ、みなさんがよくいらっしゃるV I Oでもできますよ」と聞いた。デジタル化に向けて市の職員の方の仕事は大変だったと思うが、画期的だと思った。立会人がいつも見つからなくて困るという問題に対しても、地区を問わず広く市内一円で公募をかけたところ、買って出てくれた登録者がいたということをお聞きして、こういうことが地域づくりの中でももっと取り入れていけると解決できることもあると思う。行政でも、本当に大事なもの、本当に残す物は何かということを見極めた動きが必要で、バリアフリー化とスリム化というのはポイントになると感じている。

垣根を取っ払った例として、公民館のリレー講座があり、その地域では成り立たなくても他から来てくれる。他から来てくれて地域の良いところを知るという取組みも良い。私の集落では、この事業に乗っかっているかはわからないが、集落内の交流事業に似た感じで、世代間の枠を超えて、安否確認や若い方の相談を聞くなど、こういう場が構築されている。助成も多分入っているということなので、その年度ごとにいくつか、どういうことをどういう集落でして

いるかということをもう少しお知らせいただくと、そこから拾えるものがあるのではと思う。

また、若い方に参画していただくのは、自分の家の中でも若い者にはとても言えないので難しいが、例えば命に関わるような、最近だと異常気象における災害が多いので、防災に観点を置いたら起爆剤になるのではないかなと思う。

【教育長】

私は世代間交流の視点から述べたい。資料の6ページに「世代間交流」の文字が出ているが、大野市はもう国型コミュニティスクールに移行して、学校運営協議会という形で進んでいる。

そして、先程の「学び」のところでも3番目に「地域と一体となった体験・学びの推進」という柱を大きく入れているので、やはり地域の方々に学校に入ってきていただくとか、外部講師を招くあるいは子どもたちが出て行ってふるさと学習を行うなど、地域の中で世代間交流をしっかりと推進していきたい。小学生も中学生も高校生も地域のことをしっかりと考えている。大人も考えるが、子どもたちのアイデアというか活動もしっかり尊重しながら交流を進めていきたいと思っている。

【市長】

今回はこの前の8月に決まった最新の情報も入れて説明してくれているが、5年間かかってここまで来て、今まとめていただいたものをまた来月報告を聞くが、それを市全体に広げていこうとするとやはり十分丁寧に進めていく必要があると思っている。

一方で、課題の2項目はコロナ禍を経て、実際に活動されている方々が自分の課題として取り組んで認識していただいたので、この報告に進んでいる。

今日それぞれの委員からいただいたお言葉はすごく大事だと思って拝聴していた。私もまた正式な報告を受けながら、丁寧に引き続き進めていきたいと思う。私たちが大好きなこの大野という場所でずっと住み続けていくために、やっていかななくてはいけないことだと認識しているので頑張っていきたい。

1つ、馬道委員からご質問があった（仮称）地域交流センターと公民館の違いだけご説明いただいてもいいか。

【地域文化課長】

公民館は社会教育法で定義づけされていて、収益事業ができない。例えば、それぞれの地域で特産物があったとして、それらを営業して物販などやりたいなと思っても今の公民館ではできない。他には、地区内に高齢者が増えて移動

しようにも足がないといった時に、移動支援という形で、その地区で車を購入して地区の方々が運転するというような収益事業的なものをしようとしても、公民館という位置づけではできない。そのようなことがあるので、今の公民館の機能は残したままさらに拡充するという形で、施設の方を地域交流センターにするところが増えている。

⑤文化芸術

――事務局より説明――

【馬道委員】

文化芸術に触れるという意味ではCOCONOアートプレイスがあるから、企画のワークショップなどで体験できるが、どういう企画をしているのか、どんなワークショップがあるのかという情報をもう少し発信していただけないか。

それから、やはり文化会館が閉館した後の文化鑑賞の場について、できるだけ早く筋道をつけて示していただけるとありがたい。

【羽生委員】

令和8年度以降の施策の柱にも謳われているが、大野には後生につなげたい印象的な芸能とか踊りがある。子どもが関わるものも多いが、令和6年の出生数が116人ほどという現状では、もう地区内で伝承するのは厳しい気がする。もし地域の方の心情が許すのであれば、広域で募って伝承するのも案かなと思う。何年か前に、記録に残そうということで「心を1つに踊り結び」というDVD、伝統芸能の踊りを記録したものがある。もし一旦途絶えても、こういう記録した媒体があると再生の道もあるので、デジタル化による記録にとどめることも大事だと思う。

市美展や文化祭に出展するといいいかなと思うが、腕に覚えがない者はやはりちょっと敷居が高いので、出展しやすい仕組みづくりがあるといい。例えば、有終西小学校の横で「野」の字に合わせて思い思いにポーズをとっていらっしゃるが、そういうフォトコンテストという形で、市民の方が敷居低く参加できるようなコーナーを設けてみてはどうか。あるもので実はちょっと隠れスポットですよといった所に焦点を当てて織り交ぜてみると、世代層によって視点も変わるし違ったものが得られるかと思う。

文化会館がなくなるということで、私のようにサークルで利用している者にとっては痛手であるが、いろいろなことを考えて前向きに捉えたいと思ってい

る。既存の施設を使うと聞いているが、音響などいろいろな問題があるので、協議をする時に専門的なアドバイスをできる方も入れて意見を大事にして新しい文化の場を作ってほしい。

【松田委員】

今進めている事業についてはどんどん進めていただきたい。

1つだけ提案がある。市美展と総合文化祭を同じぐらいの開催時期にしてはどうか。市民が気軽に出展できる総合文化祭と、ちょっとレベルの高い市美展を同時期にすると、両方を近くの場所で見れるので、少しインパクトがあるのではないかという気がする。

【教育長】

資料の7ページに「文化芸術活動の促進」とあるが、そこにぜひ子どもたちも加えていただきたい。先日の城まつりでの大野音頭のスタート時に、音人（おんど）という大人の団体のジュニアとして約10名の子が三味線や歌などで参加し、地域の文化に溶け込んでいるなど感じた。それから彼女たちが、やはり自分で選択してそこに行っているということが非常に大きいと思う。そして、クリエイトクラブというその地域のクラブの中で三味線をやっていた子が、そこに稽古を移行している。中学校の部活動の地域移行という表現をされるけれども、地域の文化の環境がまた違った形で動いてきている。吹奏楽も大きい団体だが、教育委員をしていらっしゃる松谷委員が団長となって吹奏楽ジュニアを立ち上げていただいたり、いろいろな形で子どもたちも仲間に入れて大野の文化環境は整ってきていると感じている。

【市長】

COCONOアートプレイスにしても、それ以外の市民の方々に主催される発表や鑑賞の場にしても、入館者を増やす方法というのがとても悩みになっている。今日もアイデアをいただいているが、またいいアイデアがあったら教えていただきたいというのが心からのお願いになる。

それから、主催者として担っていただく側の方も出品していただく方もお客さんも新たな層を呼び込む工夫とか、同じようなイベントを同じ時期に開催したり工夫したらどうかとか、例えば記録をとるとかスリム化であったり、いろいろなアイデアがあった。最初に申し上げたように、やはり人口減少社会の中にあるので、主催者側にとっても、内容をしっかり伝えたり楽しんでもらうという部分を大事にしながら、開催方法や運営方法を工夫していく必要があると思っている。

男女、性別、それから年齢を問わず、1人1人が自分事として関わっていただくという発想と、人の手がかからないところはデジタルの力をうまく使おうという発想は、既に入れさせていただいてきている。1人1人のスキルアップ、スポーツのところの指導者育成などは引き続きさせてもらって、場を同じにしていくという形のシェアリングも、教育に関わる分野以外のところも含めて考えていきたいと思っている。

ちなみに、今年の6月には、福祉ふれあいまつりに、新しい形で環境フェアも併せてしたり、従前からしている消防の行事も併せてした。市民の人が対象となるイベントについては、今年はちょっと1回みんなでやってみたという事例もあるので、そうしたところも見ながら形を探っていきたい。

委員さんから言い忘れたことがあればぜひおっしゃっていただきたい。

【松田委員】

補助金、血の通ったバックアップをぜひお願いしたい。

【市長】

その辺のところもうまい形でいければと思う。

(2) その他

――事務局・委員とも特になし――

【市長】

ご意見をいただけたことに心から感謝を申し上げたい。これにて閉会とさせていただきます。

4 閉会